

(19) 日本国特許庁 (J P)

公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-10905

(P 2000-10905A)

(43) 公開日 平成12年1月14日 (2000.1.14)

(51) Int. Cl.

識別記号

G06F 13/14

330

71 特考コード (参考)

G06F 13/14

330

D 5B014

審査請求、未請求 請求項の数 8 / O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平10-177321

(22) 出願日 平成10年6月24日 (1998.6.24)

(71) 出願人 000003078

株式会社東芝
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72) 発明者 堀木崎茂樹
東京都青梅市末広町2丁目9番地 株式会社東芝青梅工場

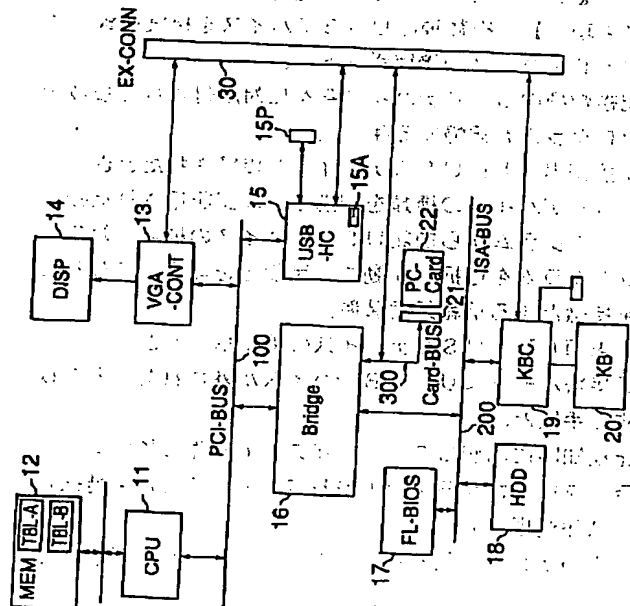
(74) 代理人 100058479 井理士 鈴江武彦 (外 6 名) F ターム (参考) 5B014 FA11 HC07

(54) 【発明の名称】 情報処理装置

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、USBデバイスの接続ポートと、上記接続ポートに接続されるUSBデバイス上で動作するプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、USBポート上に於けるUSBデバイス接続を監視し、接続時に自動的にプログラムを起動して、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にしたことを特徴とする。

【解決手段】 USBポート15pにUSBデバイスが接続されたことが判別されると、主メモリ(MEM)12上に置かれたOSにより管理されるUSBデバイス情報テーブル(TBL-A)からUSBデバイスの名称を取得し、更にUSBデバイス/起動対象プログラム対応テーブル(TBL-B)からプログラム名を取得して、その取得したプログラム名をもとに、USBポート15pに接続されたUSBデバイスに指定されているプログラムを選択し自動起動する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 シリアルポートと、当該シリアルポートに接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、

前記シリアルポートにデバイスが接続されたことを検知し、当該検知時に前記プログラムを起動する手段を具備してなることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 シリアルポートと、当該シリアルポートに接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、

前記シリアルポートよりデバイスが外されたことを検知し、当該検知時に前記デバイス上で動作するプログラムを終了させる手段を具備してなることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 3】 複数種のデバイスを接続対象とするシリアルポートと、前記複数種のデバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する記憶手段と、

前記シリアルポートにデバイスが接続されたとき、当該デバイスの種類を判別し、前記記憶手段に記憶されたプログラムから前記デバイスの種類に対応するプログラムを選択し起動する手段とを具備してなることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 4】 U S B デバイスの接続ポートと、前記接続ポートに接続される U S B デバイス上で動作するプログラムを記憶する手段と、

前記接続ポートに U S B デバイスが接続されたことを検知する手段と、

前記検知に伴い前記プログラムを起動する手段とを具備してなることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 5】 複数種の U S B デバイスを接続対象とする U S B デバイスの接続ポートと、前記複数種の U S B デバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する手段と、

前記接続ポートに U S B デバイスが接続されたとき、当該 U S B デバイスの種類を判別し、前記記憶された複数種のプログラムから前記 U S B デバイスの種類に対応するプログラムを選択し起動する手段とを具備してなることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 6】 U S B デバイスの接続ポートと、前記接続ポートより U S B デバイスが外されたことを検知する手段と、

前記検知時に前記 U S B デバイス上で動作しているプログラムを終了させる手段とを具備してなることを特徴とする情報処理装置。

【請求項 7】 起動するプログラムは、O S が管理する U S B デバイス情報と、複数種の U S B デバイスに対応するプログラム一覧とを参照して決定され選択される請求項 6 記載の情報処理装置。

【請求項 8】 起動するプログラムは、O S が管理する

U S B デバイス情報と、U S B デバイスの種類に関する情報と、当該種類に対応するプログラム一覧とを参照して決定され選択される請求項 6 記載の情報処理装置。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】本発明は、シリアルポート及びシリアルポートに接続されたデバイスの動作を制御するプログラムを備えた情報処理装置に関する。本発明は、U S B (Universal Serial Bus) デバイスの接続ポート及び U S B デバイスの動作を制御するプログラムを備えた情報処理装置に関する。

【 0 0 0 2 】本発明は、シリアルポートに接続されるデバイスの動作を制御するプログラムの動的起動制御機能をもつ情報処理装置に関する。本発明は、U S B デバイスの動作を制御するプログラムの動的起動制御機能をもつ情報処理装置に関する。本発明は、U S B デバイスの挿抜に伴うプログラムの動的起動・停止制御機能をもつ情報処理装置に関する。

【 0 0 0 3 】

【従来の技術】従来、U S B デバイスの接続ポート及び U S B デバイスの動作を制御するプログラムを備えたパーソナルコンピュータ (P C) に於いて、U S B デバイスと U S B デバイス上で動作するプログラムを利用する際、U S B デバイスを P C 本体に設けられた U S B デバイス専用の接続ポートにコネクタに接続した後、P C 上の O S (オペレーティングシステム) よりプログラムを起動するオペレーションを必要とした。

【 0 0 0 4 】また、従来では、U S B デバイスと U S B デバイス上で動作するプログラムを利用している環境で、U S B デバイスを取り外した場合、動作しているプログラムは利用できなくなり、終了する必要が生じるが、プログラムを終了させるにはユーザによるオペレーションを必要とした。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】上記したように従来では、U S B デバイスの接続ポート及び U S B デバイスの動作を制御するプログラムを備えた P C に於いて、U S B デバイスと U S B デバイス上で動作するプログラムを利用する際、U S B デバイスを P C 本体に設けられた U S B デバイス専用の接続ポートにコネクタ接続した後に、P C 上の O S (オペレーティングシステム) よりプログラムを起動するオペレーションを必要とし、U S B デバイスのクイックスタート動作等を考慮した使い勝手の向上を図る上で問題があった。

【 0 0 0 6 】また、従来では、U S B デバイスと U S B デバイス上で動作するプログラムを利用している環境で、U S B デバイスを取り外した場合、動作しているプログラムは利用できなくなり、終了する必要が生じるが、プログラムを終了させるにはユーザによるオペレーションを必要とすることから、使い勝手の向上を図る上

で問題があった。

【0007】本発明は上記実情に鑑みなされたもので、シリアルポートと、当該シリアルポートに接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記デバイスと当該デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置を提供することを目的とする。

【0008】また、本発明は、シリアルポートと、当該シリアルポートに接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記デバイスの動作を終了する際に、上記デバイス上で動作しているプログラムの終了処理に関するオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置を提供することを目的とする。

【0009】また、本発明は、複数種のデバイスを接続対象とするシリアルポートと、上記複数種のデバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記デバイスと当該デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置を提供することを目的とする。

【0010】また、本発明は、U.S.B.デバイスの接続ポートと、上記接続ポートに接続されるU.S.B.デバイス上で動作するプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記U.S.B.デバイスと当該U.S.B.デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置を提供することを目的とする。

【0011】また、本発明は、複数種のU.S.B.デバイスを接続対象とするU.S.B.デバイスの接続ポートと、上記複数種のU.S.B.デバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記U.S.B.デバイスと当該U.S.B.デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置を提供することを目的とする。

【0012】また、本発明は、U.S.B.デバイスの接続ポートと、上記接続ポートに接続されるU.S.B.デバイス上で動作するプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記U.S.B.デバイスの動作を終了させる際に、当該U.S.B.デバイス上で動作しているプログラムを利用する際、ユーザによるプログラムの終了処理に関するオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置を提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】本発明は、例えばR S - 2 3 2 C等のシリアルポートと、当該シリアルポートに

接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記シリアルポートに、デバイスが接続されたことを検知し、当該検知時に上記プログラムを起動する手段を設けて、上記デバイスと当該デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にしたことを特徴とする。

【0014】また、本発明は、例えばR S - 2 3 2 C等のシリアルポートと、当該シリアルポートに接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記シリアルポートよりデバイスが外されたことを検知し、当該検知時に上記デバイス上で動作するプログラムを終了させる手段を設けて、上記デバイスの動作を終了する際に、上記デバイス上で動作しているプログラムの終了処理に関するオペレーションを不要にしたことを特徴とする。

【0015】また、本発明は、複数種のデバイスを接続対象とする例えばR S - 2 3 2 C等のシリアルポートと、上記複数種のデバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記シリアルポートにデバイスが接続されたとき、当該デバイスの種類を判別し、上記記憶手段に記憶されたプログラムから上記デバイスの種類に対応するプログラムを選択し起動する手段を設けて、上記デバイスと当該デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にしたことを特徴とする。

【0016】また、本発明は、U.S.B.デバイスの接続ポートと、上記接続ポートに接続されるU.S.B.デバイス上で動作するプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記接続ポートにU.S.B.デバイスが接続されたことを検知する手段と、当該検知に伴い上記プログラムを起動する手段とを設けて、上記U.S.B.デバイスと当該U.S.B.デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にしたことを特徴とする。

【0017】また、本発明は、複数種のU.S.B.デバイスを接続対象とするU.S.B.デバイスの接続ポートと、上記複数種のU.S.B.デバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記接続ポートにU.S.B.デバイスが接続されたとき、当該U.S.B.デバイスの種類を判別し、上記記憶された複数種のプログラムから上記U.S.B.デバイスの種類に対応するプログラムを選択し起動する手段を設けて、上記U.S.B.デバイスと当該U.S.B.デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にしたことを特徴とする。

【0018】また、本発明は、U.S.B.デバイスの接続ポートと、上記接続ポートに接続されるU.S.B.デバイス上で動作するプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理

装置に於いて、上記接続ポートよりUSBデバイスが外されたことを検知する手段と、上記検知時に上記USBデバイス上で動作しているプログラムを終了させる手段とを設けて、上記USBデバイスの動作を終了させる際に、当該USBデバイス上で動作しているプログラムを利用する際、ユーザによるプログラムの終了処理に関するオペレーションを不要にしたことを特徴とする。

【0019】上記したような機能をもつことで、RS-232C等のシリアルポート、USBデバイスの接続ポート等に接続されたデバイスの使用時に於ける使い勝手
10 を大幅に向上させることができる。

【0020】

【発明の実施の形態】以下図面を参照して本発明の実施形態を説明する。図1は本発明の実施形態に係る情報処理装置の構成を示すブロック図であり、ここでは、バッテリー駆動可能なノートブックタイプのパーソナルコンピュータ本体（PC本体と称す）を例にとって示している。このPC本体には、拡張コネクタ（EX-CONN）30を介して、ドック／アンドック機構を備えた拡張ユニットと任意に脱着自在である。

【0021】PC本体内には、図示するように、PCIバス100、ISAバス200、カードバス（Card-BUS）300、及びメモリバス等が設けられ、PCIバス100上に、CPUモジュール11、VGAコントローラ（VGA-CONT）13、及びUSBホストコントローラ（USB-HC）15等が接続され、メモリバスを介してCPUモジュール11に主メモリ（MEM）12が接続され、PCIインターフェイスブリッジ（Bridge）16を介してPCIバス100とISAバス200とが接続される。

【0022】また、PCIインターフェイスブリッジ（Bridge）16には、カードバス（Card-BUS）300を介してPCカード22を接続するためのカードコネクタ21が接続され、ISAバス200上には、フラッシュBIOS-ROM（FL-BIOS）17、ハードディスクドライブ（HDD）18、キーボード（KB）20及びポインティングデバイス等を制御するキーボードコントローラ（KBC）19等が接続される。

【0023】CPUモジュール11は、このシステム全体の動作制御およびデータ処理を実行するもので、ここにはCPU、キャッシュ、さらには主メモリ（MEM）12を制御するためのメモリコントローラなどが搭載されている。ここでは、主メモリ（MEM）12上のOS（オペレーティングシステム）並びにUSBデバイス起動処理プログラムに従い図2に示すUSBデバイス起動処理を実行する。尚、第2実施形態では図3に示すUSBデバイス起動処理を実行し、第3実施形態では図4に示すUSBデバイス終了処理を実行する。

【0024】主メモリ（MEM）12は、このシステムの主記憶として使用されるもので、オペレーティングシ
50

ステム（OS）、処理対象のアプリケーションプログラム、およびアプリケーションプログラムによって作成されたユーザデータ等が格納される。ここでは、上記したプログラム及びデータ以外に、OSの制御の下に起動される、図2に示すような処理ルーチンをもつUSBデバイス起動処理プログラムが格納される。更に、ここでは、上記USBデバイス起動処理プログラムによるUSBデバイス起動処理で参照される、図2に示すようなUSBデバイス情報テーブル（TABLE-A）、及びUSBデバイス／起動対象プログラム対応テーブル（TABLE-B）が格納される。

【0025】VGAコントローラ（VGA-CONT）13は、このシステムのディスプレイモニタ（DISP）14として用いられるLCD、及び図示しない外部ディスプレイ（CRTディスプレイ）を制御する。

【0026】USBホストコントローラ（USB-HC）15は、USBポート15pにコネクタ接続されるUSBデバイスの入出力制御を司るもので、ここでは、PC本体に設けられたUSBポート15pに接続されるUSBデバイスだけでなく、拡張ユニット（Dock）のUSBポートに接続されるUSBデバイスを含めて制御対象とする。

【0027】このUSBホストコントローラ（USB-HC）15は、機能が有効になっているとき、一定周期のフレーム単位でデータ転送を行なうもので、当該USBホストコントローラ（USB-HC）15のバス上に於いて、SOF（スタートオブフレーム）パケットを1ミリ秒毎に出力している。

【0028】更にこのUSBホストコントローラ（USB-HC）15には、OSにより管理されるUSBサスペンドレジスタ15Aが設けられ、当該USBサスペンドレジスタ15Aにより、USB機能が有効になっているか無効になっているかがソフトウェアに示される。

【0029】PCIインターフェイスブリッジ（Bridge）16は、1チップLSIによって実現されたゲートアレイであり、ここには、PCIバス100とISAバス200との間を双方向で接続するブリッジ機能が内蔵されている。

【0030】フラッシュBIOS-ROM（FL-BIOS）17は、システムBIOSを記憶するためのもので、プログラム書き換えが可能なようにフラッシュメモリによって構成されている。システムBIOSは、このシステム内の各種ハードウェアをアクセスするファンクション実行ルーチンを体系化したものであり、ここには、システムステータスを動作状態（電源オン状態）、停止状態（電源オフ状態）、その中間のスリープ状態（サスペンド／ハイバネーション状態）に設定するためのパワーマネジメント機能や、システムのハードウェア環境の変化を自動認識するための機能等が設けられる。

【0031】図2は本発明の第1実施形態に於けるUS

Bデバイス起動処理プログラムの処理手順と、当該処理に於いて参照されるUSBデバイス情報テーブル(TBLE-A)、及びUSBデバイス/起動対象プログラム対応テーブル(TBLE-B)の構成を示している。

【0032】図3は本発明の第2実施形態に於けるUSBデバイス起動処理プログラムの処理手順と、当該処理に於いて参照されるUSBデバイス情報テーブル(TBLE-A)と、USBデバイス/デバイス種類対応テーブル(TBLE-C)、及びデバイス種類/起動対象プログラム対応テーブル(TBLE-D)の構成を示している。

【0033】図4は本発明の第3実施形態に於けるUSBデバイス起動処理プログラムの処理手順と、当該処理に於いて参照されるUSBデバイス情報テーブル(TBLE-A)、及びUSBデバイス/デバイス種類対応テーブル(TBLE-C)、及びUSBデバイス/終了対象プログラム対応テーブル(TBLE-E)の構成を示している。

【0034】ここで、先ず上記図1及び図2を参照して本発明の第1実施形態に於ける動作を説明する。この第1実施形態では、USBポート15p上に於けるUSBデバイスの接続監視と、当該USBデバイス接続時のデバイス名(名称又は種別)を判別することによって、USBデバイス毎に指定されたプログラムを起動するための機能を実現している。

【0035】ここでは、図2に示すUSBデバイス起動処理ルーチンに於いて、USBポート15pにUSBデバイスが接続されたか否かが監視され、USBポート15pにUSBデバイスが接続されたことが判別されると(図2ステップS11)、そのUSBデバイスがPC本体のUSBポート15pに接続されたイベントを取得したタイミングで、主メモリ(MEM)12上に置かれたOSにより管理されるUSBデバイス情報テーブル(TBLE-A)から図示するようなUSBデバイスの情報(USBデバイスの接続状態/接続されているUSBデバイスの名称(又は種別))が取得され(図2ステップS12)、更に、USBデバイス/起動対象プログラム対応テーブル(TBLE-B)が参照されて、USBポート15pに接続されたUSBデバイス上で動作するプログラムが存在するか否かが判別される(図2ステップS13)。

【0036】この際、この実施形態では上記USBデバイス/プログラム対応テーブル(TBLE-B)に登録されているプログラム一覧で示される各プログラム(実体)は主メモリ(MEM)12に予め格納されているものとする。

【0037】上記の如くしてOS(USBデバイス情報テーブル(TBLE-A))から取得したUSBデバイスの名称と、予め用意されているUSBデバイスに対応するプログラム一覧を格納したデータベース(USBデバイス/起動対象プログラム対応テーブル(TBLE-

B))から、USBポート15pに接続されたUSBデバイスに指定されているプログラムを選択し自動起動する(図2ステップS14)。

【0038】このようにして、USBポート15pに接続されたUSBデバイス上で動作するプログラムを選択し自動起動ことにより、ユーザによるプログラム起動に関するオペレーションを省略することができ、USBポート15pを用いたUSBデバイスの使い勝手が著しく向上される。

10 【0039】次に上記図1及び図3を参照して本発明の第2実施形態に於ける動作を説明する。この第2実施形態では、USBポート15p上に於けるUSBデバイスの接続監視と、USBデバイス接続時に於けるUSBデバイスの種類判別とによって、USBデバイスの種類毎に指定されたプログラムを起動するための機能を実現している。

【0040】ここでは、図3に示すUSBデバイス起動処理ルーチンに於いて、USBデバイスがPC本体のUSBポート15pに接続されたイベントを取得したタイミングで、OSが管理するUSBデバイス情報テーブル(TBLE-A)と、USBデバイス/デバイス種類対応テーブル(TBLE-C)を参照して、USBポート15pに接続されたUSBデバイスの名前と、その名前からUSBデバイス種類を取得する(図3ステップS21~23)。

20 【0041】ここで取得した結果から、デバイス種類/起動対象プログラム対応テーブル(TBLE-D)を参照して、USBポート15pに接続されたUSBデバイス上で動作するプログラムの存在を確認した後、デバイス種類/起動対象プログラム対応テーブル(TBLE-D)上で取得したプログラム名をもとに、予めUSBデバイスの種類毎に指定されているプログラムを自動起動する(図3ステップS24、25)。

30 【0042】このようにして、USBポート15pに接続されたUSBデバイス上で動作するプログラムを選択し自動起動ことにより、ユーザによるプログラム起動に関するオペレーションを省略することができ、USBポート15pを用いたUSBデバイスの使い勝手が著しく向上される。またUSBデバイスの種類別に対して起動処理を行なうため、新規に接続されたUSBデバイスであっても、その種類が指定されていれば新規に設定を行なうことなくプログラムを自動起動することができる。

40 【0043】次に上記図1及び図4を参照して本発明の第3実施形態に於ける動作を説明する。この第3実施形態では、USBデバイス上で動作しているプログラムをUSBデバイスを取り外したタイミングで終了するために、USBデバイスの取り外し監視と、USBデバイスに関連したプログラムの終了を行なう機能を実現している。

50 【0044】ここでは、図4に示すUSBデバイス終了

処理ルーチンに於いて、USBデバイスがPC本体のUSBポート15pから取り外されたイベントを取得したタイミングで、OSが管理するUSBデバイス情報テーブル(TBLE-A)より、取り外されたUSBデバイスの情報を取得し、更にUSBデバイス/終了対象プログラム対応テーブル(TBLE-E)より、取り出されたUSBデバイスに関連したプログラム名の情報を取得する(図4ステップS31, S32)。

【0045】更にその後、上記取得した情報をもとに、対象となるプログラムが動作していることを確認して、そのプログラムに対し終了処理の通知を行なう(図4ステップS33, S34)。

【0046】このようにして、USBデバイスの取り外しと同時に、関連したプログラムを終了させることによって、ユーザによるプログラム終了に関するオペレーションを省略することができ、USBポート15pを用いたUSBデバイスの使い勝手が著しく向上される。またプログラムから取り外されてPC上に存在しないUSBデバイスに対しての不用意な動作を防止することができる。

【0047】尚、上記した実施形態では、いずれもUSBポートに接続されたUSBデバイスを対象にプログラムの自動起動及び終了処理を説明したが、これに限らず、例えばRS-232C等、他のシリアルポートに接続されるデバイスを対象にしたプログラムの自動起動及び終了処理に於いても同様に適用可能である。または、RS-232Cポートに接続されるデバイスと、USBポートに接続されるUSBデバイスとをそれぞれプログラムの自動起動及び終了処理の対象とすることも可能である。

【0048】

【発明の効果】以上詳記したように本発明によれば、シリアルポートと、当該シリアルポートに接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記デバイスと当該デバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置が提供できる。

【0049】また、本発明によれば、シリアルポートと、当該シリアルポートに接続されるデバイス上で動作するプログラムの記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記デバイスの動作を終了する際に、上記デバイス上で動作しているプログラムの終了処理に関するオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置が提供できる。

【0050】また、本発明によれば、複数種のデバイスを接続対象とするシリアルポートと、上記複数種のデバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する記憶手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記デバイスと当該デバイス上で動作するプログラムを利用する際、

ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置が提供できる。

【0051】また、本発明によれば、USBデバイスの接続ポートと、上記接続ポートに接続されるUSBデバイス上で動作するプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記USBデバイスと当該USBデバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置が提供できる。

【0052】また、本発明によれば、複数種のUSBデバイスを接続対象とするUSBデバイスの接続ポートと、上記複数種のUSBデバイス各々に対応付された複数種のプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記USBデバイスと当該USBデバイス上で動作するプログラムを利用する際、ユーザによるプログラム起動のオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置が提供できる。

【0053】また、本発明によれば、USBデバイスの接続ポートと、上記接続ポートに接続されるUSBデバイス上で動作するプログラムを記憶する手段とをもつ情報処理装置に於いて、上記USBデバイスの動作を終了させる際に、当該USBデバイス上で動作しているプログラムを利用する際、ユーザによるプログラムの終了処理に関するオペレーションを不要にして使い勝手を向上させた情報処理装置が提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係る情報処理装置の構成を示すブロック図。

【図2】本発明の第1実施形態に於ける処理手順を示すフローチャート。

【図3】本発明の第2実施形態に於ける処理手順を示すフローチャート。

【図4】本発明の第3実施形態に於ける処理手順を示すフローチャート。

【符号の説明】

11…CPUモジュール、

12…主メモリ(MEM)、

13…VGAコントローラ(VGA-CONT)、

14…ディスプレイモニタ(DISPLAY)、

15…USBホストコントローラ(USB-HC)、

15p…USBポート、

16…PCIインターフェイスブリッジ(Bridge)、

17…フラッシュBIOS-ROM(FL-BIOS)、

18…ハードディスクドライブ(HDD)、

19…キーボードコントローラ(KBC)、

20…キーボード(KB)、

21…カードコネクタ、

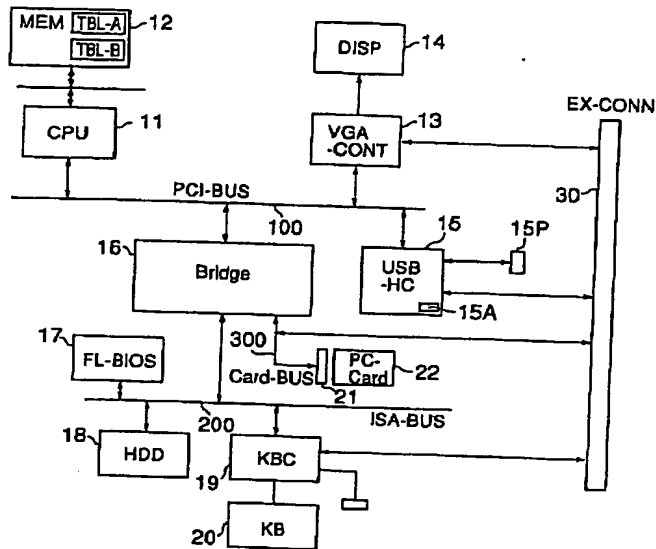
22…PCカード、

30…拡張コネクタ(EX-CONN)、

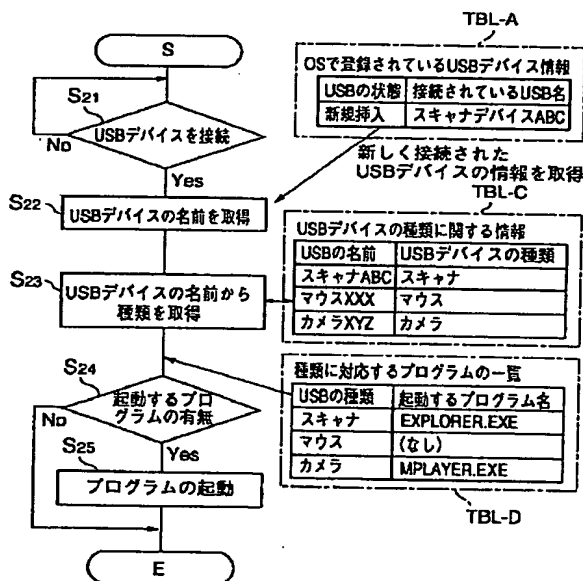
100…PCIバス、

200...ISAバス、
 300...カードバス (Card-BUS)
 TBL-A...USBデバイス情報テーブル、
 TBL-B...USBデバイス/起動対象プログラム対応
 テーブル、
 TBL-C...USBデバイス/デバイス種類対応テーブ

【図1】

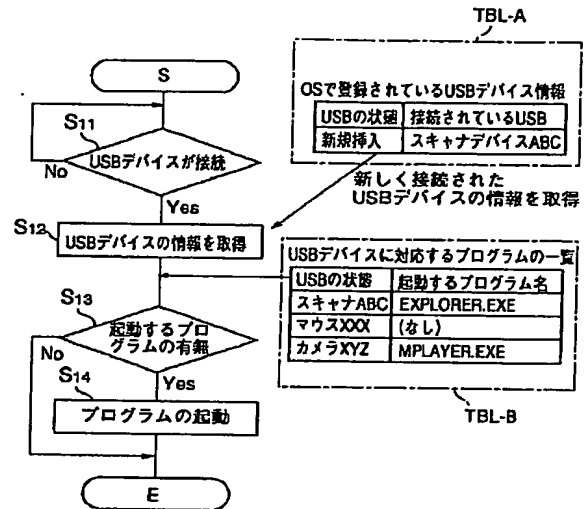


【図3】

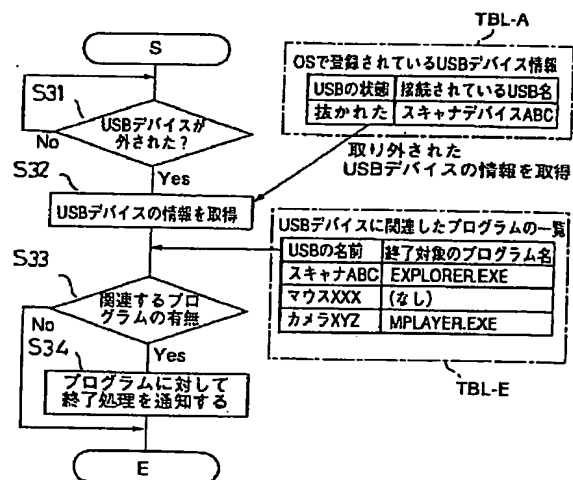


ル、
 TBL-D...デバイス種類/起動対象プログラム対応テ
 ーブル、
 TBL-E...USBデバイス/終了対象プログラム対応
 テーブル。

【図2】



【図4】



THIS PAGE BLANK (USPTO)